



平成27年4月23日

まんがで読む「未来への選択肢」とリーフレット完成 年齢と妊娠の関係、生殖医療を知って！

岡山大学大学院保健学研究科では3月31日、「岡山県妊孕性^{にんようせい}等普及啓発標準プログラム」の一環として、まんがで読む「未来への選択肢」と、その参考資料となるリーフレット「知っておきたいシリーズ①～④」を作成しました。

学校等で行われている性教育は、「性感染症や望まない妊娠にならないように」という内容が多く、本来行うべきである妊娠の成立や、出産の話、妊娠に適した年齢、生殖医療の現実といった「妊孕性（妊娠にいたる能力）」についての教育が不足しています。

また、インターネットを中心に、さまざまな「性」や「生殖」に関する情報が溢れています。誤った情報に惑わされることなく、思春期、そして日頃から、自分の考えを持って適切に判断をすることが重要です。

完成した本やリーフレットを子どもから大人まで読んでいただき、教育や医療の現場で「性」や「生殖」に関して考える契機にさせていただきたいと思えます。

<背景・概要>

2008年には「アラフォー白書」や「そろそろ産まなきゃ、出産タイムリミット直前調査」といった本が出版されてはいましたが、2010年頃からみられた「高齢女性が海外に渡り、卵子提供を受けて体外受精で子どもを得ている事例」についての各種の報道、「卵子の老化」に関する番組の放映などにより、生殖可能年齢についての関心が一気に高まりました。政府は「女性手帳（仮）」の発刊による生殖可能年齢についての啓発を計画したものの、「国が女性の生き方に口出しをするのか」などの声が挙がったこともあって中止となっています。

しかし、不妊外来を受診されるカップルでは、受診して初めて「年齢とともに妊娠率が低下すること」「高齢になると妊娠しても流産になってしまう率も高くなること」を知る場合も多くみられます。体外受精を行えば、必ず子どもを持つことができると過信している場合も少なくありません。

ライフプランを考える上で、恋愛、結婚、妊娠、出産、子育ては重要な要素です。それぞれ多様な選択肢がありますが、それには正解や不正解はありません。年齢と妊娠しやすさとの関係など「妊孕性」についての基礎知識を持ち、よく考えて選択したのであれば、どのような判断も尊重されることは言うまでもありません。そのためにも、「知らなかった」「早く教えてくれればライフプランも変えていたのに」と後悔する人を少



PRESS RELEASE

なくすることが重要です。

本研究科では、岡山県からの依頼を受け、「県妊孕性等普及啓発標準プログラム」等作成事業として、若者に向けて「妊孕性」に関する適切な情報を提供できるよう、各種の資料を作りました。活用していただければ幸いです。

<資料>

- ・ライフプランを考えるあなたへ ーまんがで読むー「未来への選択肢」
- ・リーフレット 知っておきたいシリーズ
 - ①「いのちのはじまりの旅」
 - ②「年齢と卵子や精子のかんけい」
 - ③「妊娠・出産 子育て事情」
 - ④「今のうちに知っておこう！出生前検査」

<お問い合わせ>

岡山大学大学院保健学研究科 教授

岡山大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センター
教授・副センター長 中塚 幹也

（電話番号）086-235-6538

（FAX番号）086-235-6538